

Market Watching

発表日: 2018年10月9日(火)

マーケットウィークリー(2018/10/8)

～米金利上昇で新興国市場に注目集まる～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
取締役・首席エコノミスト 嶋峰 義清 (Tel: 03-5221-4521)

【先週の市場動向】

主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	3.233	+17.2	+23.6	+139.8	2.774	2.662	2.437
日本	0.150	+2.5	+4.0	+10.5	0.119	0.087	0.066
ドイツ	0.573	+10.3	+19.3	+11.7	0.453	0.387	0.495
豪州	2.714	+4.6	+16.4	▲6.8	2.640	2.625	2.713
株価							
NYダウ	26447.05	▲0.0	+1.8	+16.1	26309	25561	25124
日経平均	23783.72	▲1.4	+5.3	+15.3	23369	22723	22491
ユーロSTOXX50	3345.51	▲1.6	+0.9	▲7.4	3369	3418	3441
上海総合	2821.35	+0.0	+4.3	▲15.8	2746	2774	3053
為替相場							
ドル/円	113.71	+0.0	+2.0	+0.8	112.43	111.57	109.78
ユーロ/円	130.93	▲0.7	+0.9	▲0.9	130.76	129.67	130.96
豪ドル/円	80.18	▲2.4	▲0.1	▲8.8	80.82	81.52	83.06
ユーロ/ドル	1.1523	▲0.7	▲0.9	▲1.6	1.163	1.162	1.193
商品市況							
WTI	74.34	+1.5	+8.2	+46.4	71.08	70.01	66.96
金	1201.2	+0.8	+0.4	▲5.4	1198	1214	1281

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週(10/1~10/5)の金融市場は、週末にかけて世界的に株価は軟調な推移となった一方、米経済指標が軒並み強めとなったことから金利は上昇した。前週から続いていた米国とカナダの貿易交渉が妥結して、NAFTAの枠組みが維持されたことで楽観的な雰囲気が始まったなか、注目された米経済指標のなかでは非製造業のISM景気指数が市場予想を上回って過去最高水準をつけたことなどもあって、米金利は上昇基調を強めた。週末に発表された米雇用統計では、注目された賃金の上昇率は小幅鈍化したものの、失業率が一段と低下して先行きの賃金上昇懸念が残ったこともあって、金利の上昇傾向には歯止めがかからなかった。こうした米金利上昇のなか、新興国市場では通貨安、金利上昇、株安の流れが強まった。

【今週のマーケット環境】

今週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサス	前回	備考
10月8日(月)	—				
10月9日(火)	—				
10月10日(水)	日本：機械受注(9月)・船舶除く民需 米国：生産者物価指数(9月)・最終需要 ・最終需要(コア)	★	▲4.0% +2.7% +2.6%	+11.0% +2.8% +2.3%	前月比 前年比 前年比
10月11日(木)	日本：企業物価指数(9月) 米国：消費者物価指数(9月)・総合 ・コア	★ ★★★	+0.2% +2.4% +2.3%	0.0% +2.7% +2.2%	前月比 前年比 前年比
10月12日(金)	中国：貿易統計(9月)・輸出 ・輸入 米国：ミシガン大学消費者センチメント指数(10月)	★★ ★ ★★	+8.5% +16.0% 99.6	+9.8% +19.9% 100.1	前年比 前年比 ポイント
10月13日(土)	—				
10月14日(日)	—				

(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

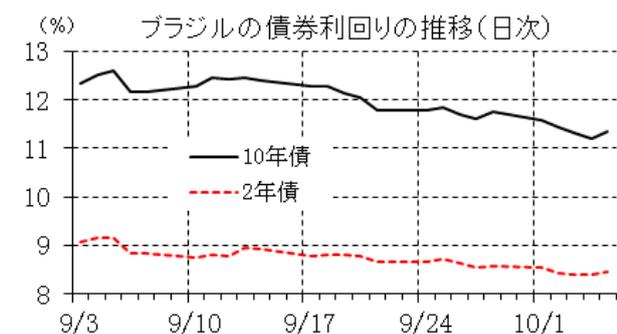
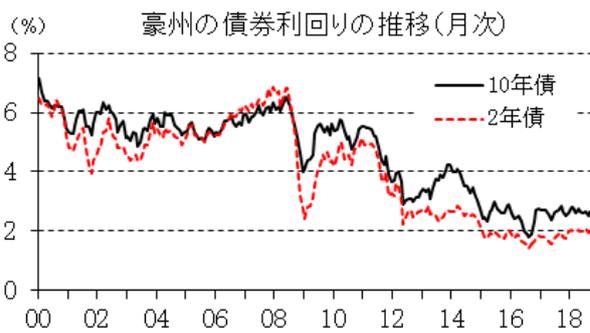
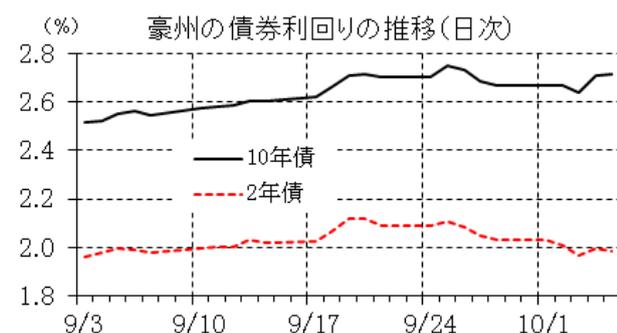
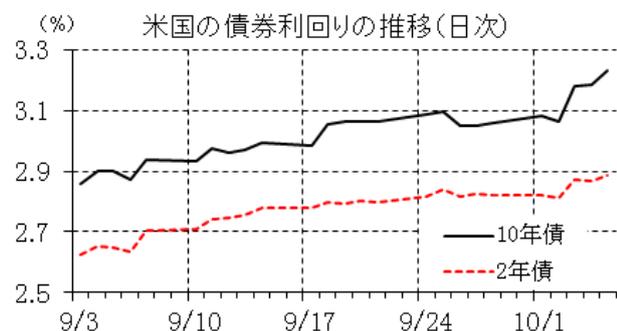
その他の注目イベント・材料

発表日	イベント	注目度	備考
10月8日(月)	米国：国債市場休場(コロンブスデー) ノーベル経済学賞受賞者発表		
10月9日(火)	IMF世界経済見通し	★★	
10月10日(水)	米国：ウィリアムズNY連銀総裁講演		
10月11日(木)	G20財務相・中銀総裁会議(～10/12)	★★★	
10月12日(金)	世銀・IMF年次総会(～10/14)	★	
10月13日(土)	—		
10月14日(日)	—		

(注) 各種報道等による。注目度は筆者。

今週は、米金利の上昇を受けて新興国市場の動向が一段と不安定化する恐れがある。今週発表される経済指標のなかでは、米消費者物価が注目される。総合ベースの前年対比上昇率は、前月に続いて鈍化が予想されているものの、こここのところ原油価格が上昇傾向を再び強めていることから、物価上昇に対する懸念を鎮めるものとはなりそうもない。総合ベースの物価と同じく前月に前年対比上昇率が鈍化したコアベースの物価は、今回(9月分)は小幅上昇率が高まる予想となっているが、これを超えるようだと景気過熱による物価上昇圧力の高まりを懸念させるものとなるため、米金利上昇+新興国市場からの資金流出懸念を一層高めるリスクがある。こうした新興国の懸念は、10/11から行われるG20財務相・中銀総裁会議でも大きく取り上げられよう。なお、10/7に行われたブラジル大統領選挙では、極右とされるボウソナロ氏が圧勝したものの、得票は過半数に届かず、10/28に行われる決選投票に持ち越された。ボウソナロ氏は“ブラジルのトランプ”などとも呼ばれているが、経済政策については財政改善や民営化の推進などをうたっており、市場にとってマイナス要因ではない。

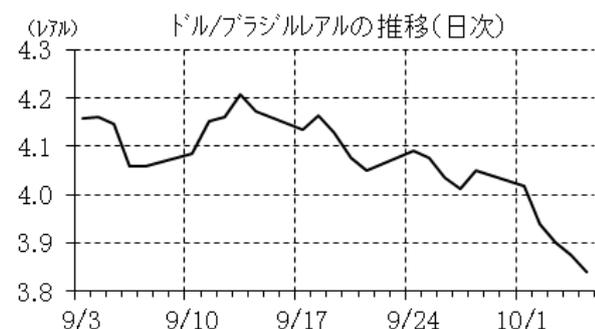
【債券利回り】



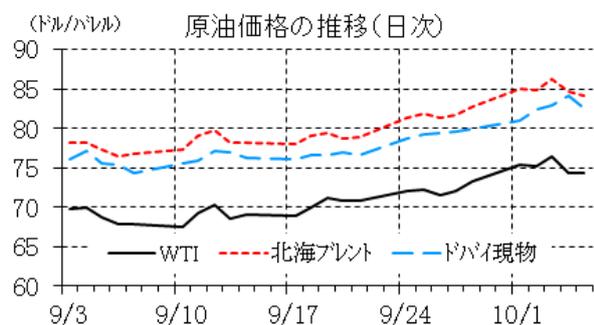
【株価指数】



【為替相場】



【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。